

富津干潟(富津海岸)の観察

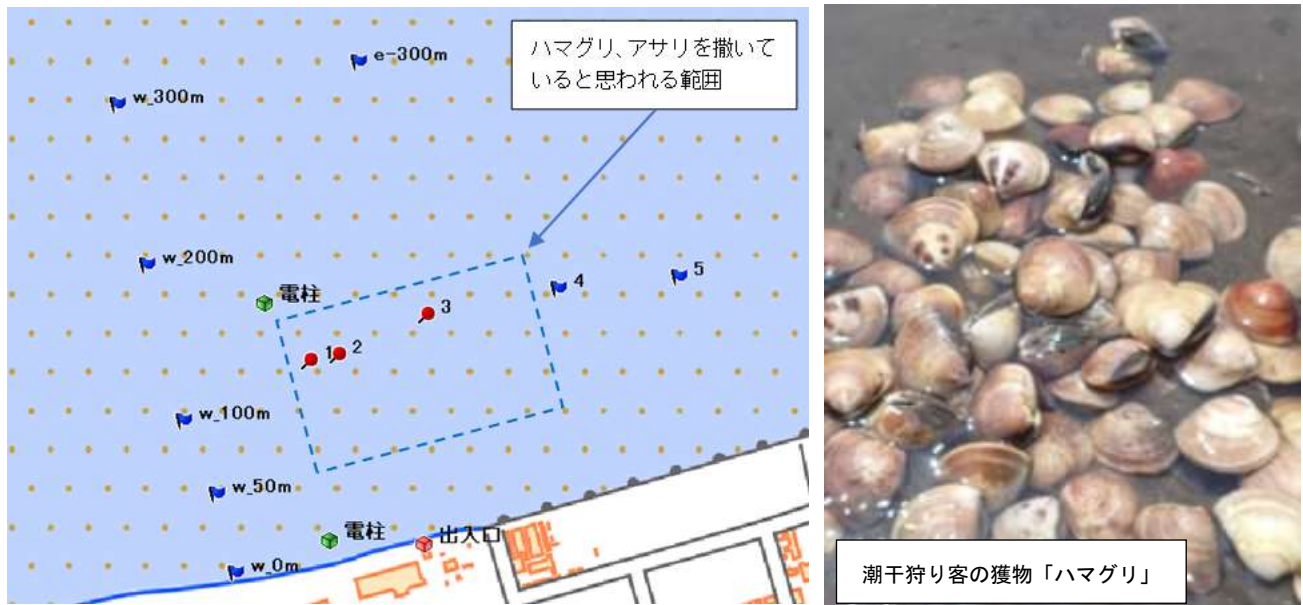
報告者：大野幸正（生き生き東京湾研究会）

日時：2023年7月4日（火）9：00～13：00 干潮時刻 11：24 天気 晴

場所：富津干潟（富津漁業協同組合の富津海岸潮干狩り場）

研究会としての2023年干潟観察会は、木更津海岸で5月8日に実施し、「比較的小さなアサリが主体、ホンビノスガイ、ハマグリ、サルボウガイ各1個。合計1.5kg程度の漁獲。」という、これまでと同様に貝類が少ない状況でした。その後、「富津海岸の潮干狩り場でハマグリが大漁」との情報があったので、7月4日に現地状況を見てきました。入場料は2000円（制限重量：2kg）で、超過料金は1000円/kgでした。潮干狩り客は、100人位であったと思います。

富津潮干狩り場の観察地点は図-1に示す17地点で、熊手、ステンレス製ふるいを用いて底生動物の状況を確認しました。当日の係員の話では、「ハマグリとアサリを撒いている」のは、潮干狩り場の電柱よりも東側とのことでした。岸・沖方向、東方向がどこまでかは聞きませんでしたが、潮干狩り客の分布状況、ハマグリの出現状況等から、以下の図と図-1で青く囲った範囲と思われました。これに基づけば、「撒いている」範囲内の観測地点は3地点となります。



「撒いている範囲」では、ハマグリがまとまって獲れる場所があり、潮干狩り客は大きいハマグリを選別して持ち帰っているようで、獲物はハマグリが主体、アサリは少々混じる程度で他の貝類は見かけませんでした。自分で持ち帰った獲物は、ハマグリが4.2kg、アサリが0.3kgでした。熊手でシオフキガイ1個を確認しましたが、マテガイ、バカガイ、アカガイ、ホンビノスガイの食用サイズはいませんでした。「撒いている範囲」以外では、ハマグリは1地点のみ、アサリは所々で確認しました。

ステンレス製ふるいを用いて、表層泥を篩うと、小さな貝類等が確認できます。最も多く見かけたのはキサゴ類で、アラムシロガイもありました。注意して捜したのはアサリ、バカガイ等二枚貝の稚貝です。多くはありませんでしたが、アサリ、バカガイの稚貝を確認し、淡オレンジ色で丸っこいシオフキガイらしき稚貝と5mmくらいで細長いマテガイらしき稚貝もいくつかの地点で確認しました。

撒いていない場所にもアサリはいるのですが、干潟の豊かさは戻っていないと感じました。

■ 撒いた場所で、まとめて採取されたハマグリ



■ 持ち帰った獲物の状況 ハマグリ 4.2kg (208 個)、アサリ 0.3kg (42 個)



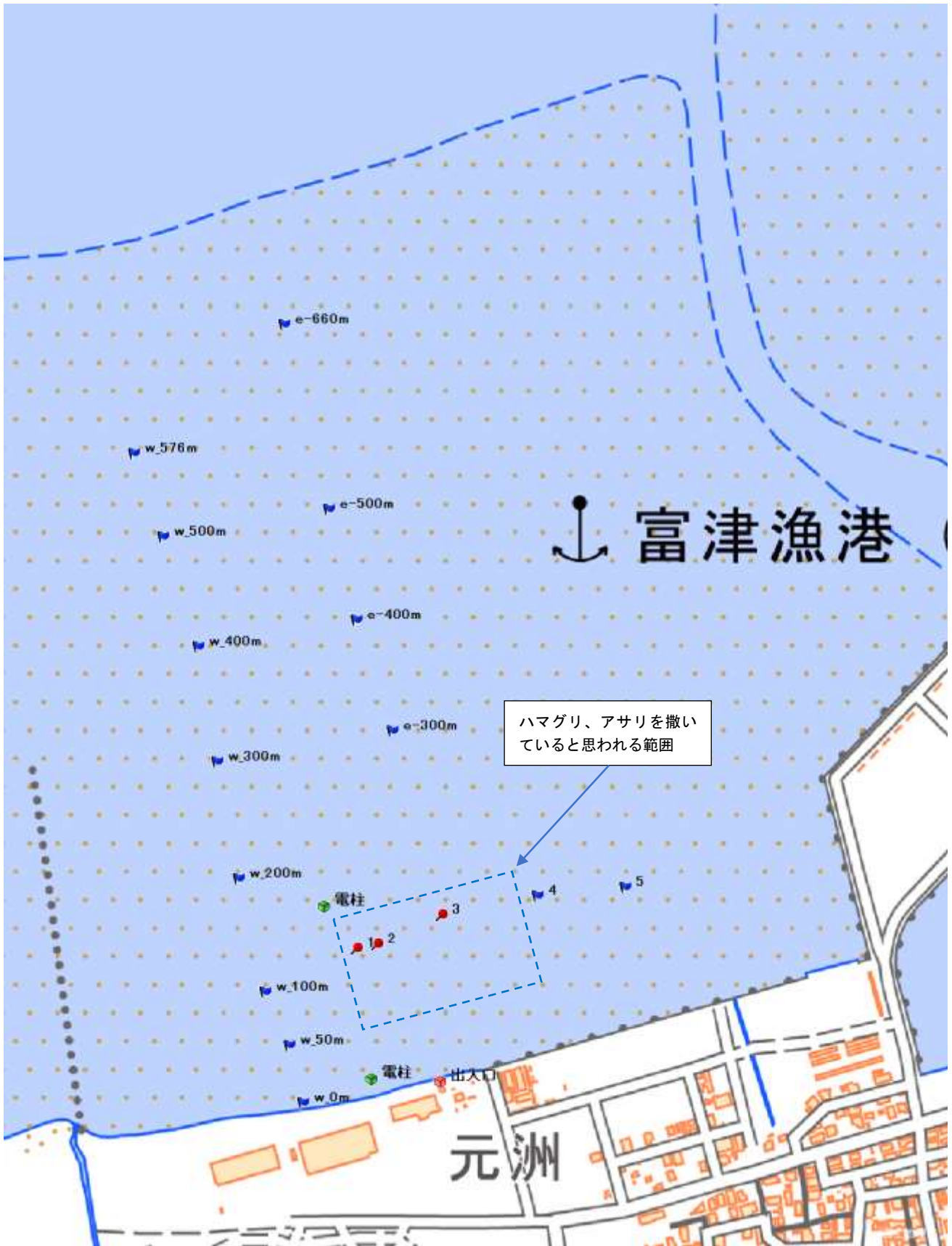


図-1 富津干潟の観察位置（青旗 14 地点と赤ピン 3 地点）



図-2 富津岬の潮干狩り場と観察位置（上：潮干狩り場内の探索ルート、下：案内図）

- 現地概況写真【潮干狩り場全景】 上：開場時（9時）、下：退場時（13時）
海草・藻類の打ち上げ物がきれいに片付けられておりました。



■ 潮干狩り場（岸から 120m 程度離れた、東西方向ライン）の様子（1～5、5 地点）

【1 「撒いている」と思われる範囲】ハマグリとアサリ。キサゴ類の他にアサリ稚貝あり。



【2 「撒いている」と思われる範囲】ハマグリ大漁。アサリも多少あり。



【2⇒3 移動中の確認】熊手でシオフキガイ 1 個を確認。潮干狩り客は、いずれもハマグリ大漁。



【3 「撒いている」と思われる範囲】ハマグリ、アサリ、キサゴ類、アサリ稚貝あり。



【4 「撒いていない」と思われる範囲】アサリ、ハマグリ、アラムシロガイ、キサゴ類。



【5 「撒いていない」と思われる範囲】アサリ、キサゴ類、アサリ稚貝とマテガイらしき稚貝。





細長くて透明感のある稚貝、マテガイと思われる。

【4⇒e_300m 移動中】



アサリは、ほどほどいる。



ボラの稚魚（群れて泳ぐ）



コアマモ、アナアオサ、イトグサ類（紅藻）。



アマモにイトグサ類（紅藻）が付着。



砂チャワン（ツメタガイの卵塊）



海草、藻類がマット状の群落を形成。

■ 潮干狩り場西側（「撒いていない」岸・沖方向ライン）の様子（w_0m～w_576m、8地点）
【w_0m 水際線、0m】底生動物なし



【w_50m 水際線から沖へ 50m】アサリ、アサリ稚貝



【w_50m⇒100m移動時】 コアマモと紅藻類のイトグサ類、アナアオサ。アマモ（枯死体）あり。



【w_100m 水際線から沖へ 100m】 アサリ、ハゼ類稚魚、カニ類（ケフサイソガニ?）



海藻（アナアオサ、イトグサ類）のマット状群落。



【w_200m 水際線から沖へ 200m】アサリ、キサゴ類、アサリ稚貝、オサガニ類



【w_300m 水際線から沖へ 300m】 稚貝が比較的多い。(アサリ、バカガイ、マテガイ？シオフキガイ？)



アナアオサ、オゴノリ (手前)



淡オレンジ色の稚貝は、シオフキガイか？
細長いマテガイらしき稚貝もいる。



【w_400m 水際線から沖へ 400m】アサリ、キサゴ類。稚貝はアサリ、バカガイとシオフキガイ？



【w_500m 水際線から沖へ 500m】キサゴ類、アサリ、アカニシ。稚貝はアサリ、バカガイ。



ホソジュズモ (緑藻)



【w_576m 水際線から沖へ 576m】 稚貝（アサリ、バカガイ）のみ少々。貝殻の混入も少ない。



■ 潮干狩り場出入口沖合（「撒いていない」岸・沖方向ライン）の様子（e_300m～e_660m、4地点）
【e_300m：潮干狩り場出入口から300m】キサゴ類、アサリ稚貝



【e_400m：潮干狩り場出入口から400m】アサリ、アサリ稚貝、バカガイ稚貝。



【e_500m：潮干狩り場出入口から 500m】キサゴ類多し、アサリ、キサゴ類、アラムシロガイ、アサリ
稚貝



【e_500m やや沖合】海草（アマモ）のマット状群落



【e_660m：潮干狩り場出入口から 660m】 バカガイの稚貝 1 個。スナヒトデ。
かつては、このあたりまでくれば、バカガイがいたと思う。



コアマモ

- 漁獲物の可食部の状況 上：ハマグリ（身が殻に比べて小さい） 下：アサリ（ほどほど）
潮干狩り場では、ハマグリの貝殻が目についた。撒かれた後、弱っていただけかもしれない。

